



「トーンチャイムかがやき隊」をゲストに迎えた「おいしく食べよう会」。澄んだ音色と幾重にも重なるハーモニーを聞かせていただきました。(11・14 楠葉学習センター)

# 平和が いちばん

2016年11月15日

第 113 号

平和で豊かな枚方を

市民みんなでつくる会

## 政務活動費 きっぱり廃止へ

不正使用の報道が連日続く政務活動費。枚方市の議員の政活費報告書に引き寄せて実態を見てみます。富山では政活費を使って印刷した市政報告を一部も配布せず自宅に放置していました。枚方でも多くの議員が広報費に充てたと報告していますがその実態は報告書ではわかりません。大阪市議が政活費でリース代を払い続けていた自家用車をほとんど妻が私用で使っていた事実が明るみに出ました。枚方市でも交通通信費は議員本人が使っているものに厳密に限定されているのか定かではありません。市政報告会の参加者人数を水増しして領収書を偽造し茶菓子代として請求していた議員もいました。同様の実態は枚方では皆無なのでしょうか。

これらの不正を防止するため「ネット公開」の動きがありますが、肝心の領収書などは検討段階です。公開されても数字の偽造を見破るのには専門的な

目が必要です。また大阪市議の自動車使用の実態は、TV局が1ヶ月間、本人周辺に張り込んでその実態を暴露したのです。不正がないように厳密に審査するためには時間と人手が必要です。さらに厳しい基準や様式を定めれば、それに適合しているか報告文書や審査が必要になります。しかし議会事務局職員も限られています。

議員には高額な報酬があります。枚方では年間約1000万円です。この報酬が勤労者の全国平均約400万円であるなら、議員独自の調査活動などの費用を税金で負担することも納得できることです。そして政活費の細部のルールを決めたのは枚方市では会派代表者会議です。この会議は非公開で会議録も作られていません。市民の全く見えないところでの取り決めです。政務活動費はきっぱり廃止。政活費に充てられる年間約2500万円を市民生活に！

### 投稿

#### 奨学金は 社会全体の問題 山田光一

過日「奨学金問題」を考える学習会を開催しました。講師をお願いした丹羽雅雄

弁護士より、①日本政府は、大学学費の引き上げの一方で、無利子枠は拡大せず、一九八四年に有利子枠を創設して一〇年間で約一〇倍に拡大。二〇〇七年度以降は民間資金の導入も始まったこと、②そのため無利子貸与の希望者は、二〇〇九年には七八%が不採用になり、二〇一三年には無利子貸与四十万人・有利子百万人という比率に。学生二人に一人が奨学金利用、三人に一人が日本学生支援機構の奨学金を借りていること

③バブル崩壊後の失業率アップ、一九九七・二〇〇二年の最初の就業者のうち三二・六%がパート・アルバイト(その後の五年間では四二・八%)という状況で、日本学生支援機構の奨学金について滞納者三十三万四千人(二〇一二年)等々の現状が詳細に報告されました。

このように何百万円もの奨学金という借金(延滞金一〇%↓二〇一四年五%)を抱えて、大学を卒業しても奨

学金を返せない人(二〇一二年度末の延滞額九二五億円、延滞者数三十三万人)に対して、支援機構は債権回収会社も利用し、返還滞納者の個人情報機関への登録(いわゆるブラックリスト化)・裁判所への「支払督促」申し立て(件数が各々一万件)等の無理な取り立てを行っています。延納者の八〇%以上が年収三百万円以下という状況で、奨学金を返したくても返せない人が、経済的にも精神的にも追い詰められています。

返済困難者対策として延滞金の廃止・保証制度の廃止・救済制度の周知徹底(返済猶予期間については五年から十年に改善済み)等を要求するとともに、当面、有利子から本来の無利子奨学金制度への転換、さらには給付型奨学金を原則とする抜本的制度改革が必要との質疑応答がされました。この場で「奨学金ホットラインの会・枚方」が結成されました。今後、大学生への宣伝や電話相談等の活動を予定しています。市民みんなでこの問題を考えていきましょう。よろしくお願います。

# 手塚たかひろ 議員日誌



10月16日 **全国図書館大会に参加** 今年で102回大会。会場の青山学院大学は参加者で満杯。テーマは「地域創造と図書館の未来」。市町村への地方交付税の算定基準に「図書館協議会経費」が入ったが、図書館への指定管理者制度導入が前提となっている。まず図書館法は図書館長の諮問機関として図書館協議会を設置できると定めているが、枚方市では設置されていない。市民参加の観点からも作られるべきだ。そして枚方でも進められている指定管理者制度。大会を主催した日本図書館協会はこの制度の導入は「基本的になじまない」との立場だ。しかし、国は地方交付税を通して自治体の図書館への指定管理者制度の導入促進を図ろうとしている。背景には導入が思ったほど進んでいないことへの焦りがあるように思う。さだ・牧野への指定管理制度導入の状況を厳しく検証し、本当に直営ではできないのか、楠葉・津田・菅原・御殿山はゼロベースで検討する必要があることを訴えていきたい。

10月30日 **団結まつり参加** テーマは「沖縄に基地はいらない！憲法を生かして平和と命を守る！」。沖縄高江でヘリパッド建設反対を闘っている東村議伊佐真次さん、インドで原発反対の運動を続けているクマール・スンドラムさんなども参加。「差別発言を平気でする機動隊」に守られて、ノグチゲラ・ヤンバルクイナなど希少生物が生きるヤンバルの森が壊され、既に数千本も切り倒され赤土がむき出しになり、住民の穏やか生活が脅かされている。反対運動は「言葉も含めて徹底した非暴力」で粘り強く続けられている。高江のことを多くの方に知らせたい。

11月3日 **城北ハツキョを支える会総会に出席** 国や大阪府は朝鮮学校への支援を打ち切っている。維新の議員は朝鮮学校へ通学している子供への支援までも打ち切れと主張する。枚方市には国籍の違う多くの子供たちがいる。朝鮮学校への差別的対応は人権侵害だ。どの子も地域で尊重され、教育を受ける権利を持っている。朝鮮学校を取り巻く状況が厳しい今、「支える会」の活動がますます重要になる。多くの方の御協力を要請したい。

10月25日 議員報酬から219,600円を大阪法務局へ供託。私は政務活動費は一円も受け取っていません。

## ホッと タイム

### 府警機動隊員の差別発言・松井知事の擁護に抗議



松田久子

沖縄に派遣されている大阪府警の機動隊員が、東村高江でオスプレイ・ヘリパッド基地建設に反対する人々に対し「土人」「シナ人」と差別発言をしました。そしてその発言に対して松井大阪府知事が、ねぎらいの言葉をツイッターで発信したり、反対運動をしている人々を問題視する発言をしています。このニュースが取り上げられたことで、沖縄の高江で進行していることが広く世間一特に本土一で知られるようになり、「沖縄差別」の実態に改めて焦点があてられたのです。「死語」と思われていた差別用語が、若い機動隊員から発せられたのは、機動隊内でそのような「教育」が日常的に行われていたのではないかと考えます。「処分」だけで終わらせない原因の糾明と、謝罪を知事に求めたい。

同時に考えるのは「差別」についてです。「差別」事象が何故、起こるのか。「差別」がなくなれないのは、それを存続させ助長することで利益を得る者がいるからです。江戸時代の「士農工商」の下に「穢多・非人」が作られたのも時の権力が身分による差別を作り出すことで、庶民を分断し支配しやすくするためでした。その本質は今も変わりません。「沖縄差別」は古くは「琉球処分」等にも見られるように、そして71年前の戦争では本土決戦の時間稼ぎとして捨て石にされ、戦後は基地の島として犠牲を強いられてきました。また今、更に新たな基地が沖縄につくられようとしています。

沖縄にこれ以上、犠牲を強いることは止めさせたい。

〒573-0027

枚方市大垣内町  
2丁目8-27  
シンエービル別館A  
市民の広場“ひこばえ”

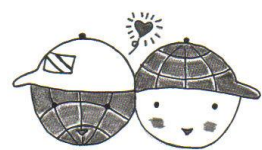
TEL&FAX  
072-846-8780

### 平和で豊かな枚方を市民みんなで作る会

共同代表 黒田 薫 (平和都市枚方を考える市民の会)  
鈴木めぐみ (親子のリズム遊び講師)  
奥村 秀二 (弁護士)  
おおた幸世 (枚方市平和無防備条例を実現する会)  
事務局長 手塚 隆寛 (枚方市会議員)  
スタッフ 松田 久子 (「すずらんの集い」代表)

メールアドレス：[hiratkatasiminnokai@yahoo.co.jp](mailto:hiratkatasiminnokai@yahoo.co.jp)

ホームページ：<http://hiratkatasiminnokai.jimdo.com/>



「会」のシンボルマーク

塔本賢一さん作